



ヨーロッパの宝石箱
リヒテンシュタイン
侯爵家の至宝展

A Jewel Box from Europe: Treasures from the Collections of the Prince of LIECHTENSTEIN

フェルディナント・ゲオルク・ヴァルトミュラー《磁器の花瓶の花、燭台、銀器》1839年
© LIECHTENSTEIN. The Princely Collections, Vaduz-Vienna

会期 令和2(2020)年

9月18日(金)～11月29日(日)

まもなく開幕！

会期中無休

開館時間 9:00～17:00

※金曜日は19:00まで、入場は
閉館の30分前まで

※9月18日(金)は10:00開場

料金

一般 1,300円 (1,100円)

高・大学生 1,000円 (800円)

小・中学生 600円 (400円)

※()内は前売・20名以上の団体料金



●JR広島駅より約1km ●広島城より約400m

●市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車20m

●ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば
発着)「県立美術館前」下車(白鳥線沿い)



広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

【開催趣旨】

オーストリアとスイスに挟まれた小国、リヒテンシュタイン。同国の君主であるリヒテンシュタイン侯爵家は、優れた美術品収集を一族の荣誉とする家訓を掲げ、名品の収集に力を注いできました。そのコレクションの煌めくような華麗さは、宝石箱にもたとえられます。本展では、ルーベンスやクラナハ(父)、ヤン・ブリューゲル(父)を含む侯爵家秘蔵の油彩画と、東洋と西洋の交流の歴史を示す陶磁器など、合わせて126点を展示します。宮廷空間を優美に飾った、絵画と陶磁器の共演をお楽しみください。

【展覧会の構成】

第1章 リヒテンシュタイン侯爵家の歴史と貴族の生活

昨年、建国300年を迎えたリヒテンシュタイン侯国は、世界で唯一、国名に家名を冠する国です。リヒテンシュタイン侯爵家は代々、オーストリアの名門貴族として、神聖ローマ帝国を治めたハプスブルク家に仕えてきました。本章では、その歴史の担い手となった侯爵家の人々の肖像画と、彼らが過ごした華やかな宮廷生活の雰囲気伝える絵画をご紹介します。



ヨーゼフ・ノイゲバウアー
《リヒテンシュタイン侯フランツ1世、8歳の肖像》1861年

第2章 宗教画

キリスト教が根付いたヨーロッパでは、人々に聖書の内容を伝え、信仰心を呼び起こすために宗教画が描かれ、それが造形的伝統の基礎を築いてきました。他の貴族同様、リヒテンシュタイン侯爵家も多くの宗教画を収集していますが、そこには、ドイツのクラナハ(父)をはじめとする16世紀の北方ルネサンス絵画、フランドル(現在のベルギーにあたる地域)のルーベンスに代表される17世紀のバロック絵画に加え、イタリアのルネサンス絵画、バロック絵画等も含まれています。本章では、時代や地域ごとに多様な表現をみせ、主題も旧約聖書や新約聖書の場面、特に人気を博した聖母子像や聖人の姿など多岐にわたる宗教画の作品群をご紹介します。



ルーカス・クラナハ(父)《聖バルバラ》1520年以降

第3章 神話画・歴史画

古典古代の芸術の復興が目指されたルネサンス期以降、ギリシャやローマの神話主題が、宗教画と並んで数多く描かれるようになりました。ルーベンスとその工房は、主題だけでなく、人物の身体表現にも古代の彫像からの引用を行っています。19世紀になると、絵画を磁器に複製して描くことが流行しますが、その際にも神話画が原画として人気を博しました。本章では、当代の人気画家たちによる神話画と、名画が絵付けされた磁器を合わせてご覧いただきます。



ペーテル・パウル・ルーベンスと工房《ペルセウスとアンドロメダ》
1622年以降

第4章 磁器—西洋と東洋の出会い

15世紀よりヨーロッパに輸出された東洋の磁器は、その白く硬い素地の美しさが称えられ、大変珍重されました。17世紀半ばまでは中国製が主流でしたが、明末清初の混乱で輸出が止まり、その間需要に応えたのが、日本の有田焼でした。また、アジアで作られ、輸出されたのち、ヨーロッパで金属装飾を施された磁器は、現地の人々の好みや生活様式に合わせた造りに生まれ変わっています。これらはまさに、東西文化の交流を体現する品といえるでしょう。



中国・景德鎮窯、金属装飾：イグナーツ・ヨーゼフ・ヴェルト
《青磁金具付大壺》磁器：清王朝（1644-1912年）、金属装飾：1760-70年頃

第5章 ウィーンの磁器製作所

18世紀に入ると、ヨーロッパでも質の高い磁器の生産がはじまります。1718年に開業したウィーン磁器製作所は、リヒテンシュタイン侯爵家の夏の離宮のほど近くに位置していました。1784年から所長を務めたコンラート・ゼーゲル・フォン・ゾルゲンタールの下、さらなる発展を遂げたウィーン磁器の絵付けの質の高さは、当時のヨーロッパでも随一となります。リヒテンシュタイン侯爵家のコレクションには、特に華やかで技巧を凝らした作品が収蔵されています。



ウィーン窯・帝国磁器製作所（ゾルゲンタール時代）《カウニッツ＝リート
ベルク侯ヴェンツェル・アントンの肖像のある嗅煙草入》1785年頃

press release

ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン 侯爵家の至宝展

第6章 風景画

16-17世紀のフランドルでは、商業により豊かになった市民が新たな絵画の購買層となり、その趣味に応えるべく絵画のジャンルが多様化していきます。風景画もそこで新たに成立したジャンルのひとつであり、それまで宗教画や神話画の背景として描かれてきた風景が主題として描かれるようになりました。リヒテンシュタイン侯爵家のコレクションには、この発展に大きく寄与したヤン・ブリューゲル(父)の作品も含まれています。また、19世紀前半のドイツ、オーストリアのビーダーマイヤー期の画家たちが、アルプスの山岳風景を地誌的な正確さをもって描いた作品は、アルプ스에抱かれた領地を有する侯爵家にとって、特別な意味を持つものといえるでしょう。



ヤン・ブリューゲル(父)《市場への道》1604年

第7章 花の静物画

花の静物画もまた、16-17世紀にかけて発展した絵画ジャンルのひとつです。こうした作品では、注文主の要望を満たすべく、本来別々の時期に咲く花が同時に描かれ、枯れることのない、豪華な花束が作り上げられました。19世紀前半のビーダーマイヤー期の画家たちがこの伝統を引き継ぎ、花の静物画の人気が高まりますが、その背景には、植物学に傾倒し「花の皇帝」と呼ばれたオーストリア皇帝フランツ1世に代表されるような、ウィーンにおける珍しい植物への関心の高まりがありました。リヒテンシュタイン侯爵家コレクションには、細密描写に優れたヴァルトミュラーらの油彩画に加え、輝くような色彩で花々が写実的に描かれた華麗な磁器の数々が収蔵されています。



ウィーン窯・帝国磁器製作所(ソルゲンタール時代)、フェルディナント・エーベンベルガー《金地薔薇文カップと受皿》1798年頃

© LIECHTENSTEIN. The Princely Collections, Vaduz-Vienna

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

press release

ヨーロッパの宝石箱
リヒテンシュタイン
侯爵家の至宝展

【関連イベント】

記念講演会（共催：広島県立美術館友の会）

テーマ：「変貌する陶磁器－東西のコラボレーション」

講師：鈴田由紀夫（本展監修者、佐賀県立九州陶磁文化館館長）

日時：9月26日（土） 13:30～15:00 [開場13:00]

場所：地階講堂（先着60名）

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】 ※聴講無料

スライドトーク

日時：10月2日（金）、10月23日（金）、11月6日（金） 16:00～16:30 [開場15:30]

10月11日（日）、11月1日（日）、11月15日（日） 15:00～15:30 [開場14:30]

講師：山下寿水（当館主任学芸員）、岡地智子（当館学芸員）、森万由子（当館学芸員）

場所：地階講堂（先着60名）

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】 ※聴講無料

インスタライブ配信

当館Instagramから当館館長メッセージ、ギャラリートークを配信します。

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

【県美×現美×ひろ美 相互割引】

「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」の会期中、3館で相互割引を実施！

下記いずれかの特別展チケット（半券可）を受付にご提示いただくと、本展当日料金より100円割引。

詳しくは各館にお問い合わせください。

※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

広島市現代美術館（南区比治山公園1-1／TEL 082-264-1121）

展覧会未定

ひろしま美術館（中区基町3-2[中央公園内]／TEL 082-223-2530）

『ねないこだれだ』誕生50周年記念せなけいこ展 2020年8月8日（土）～ 9月22日（火・祝）

press release

ヨーロッパの宝石箱
リヒテンシュタイン
侯爵家の至宝展

【開催概要】

メインタイトル :ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展

英語名 : A Jewel Box from Europe: Treasures from the Collections of the Prince of LIECHTENSTEIN

会期 : 令和2年9月18日(金) ~ 11月29日(日) 会期中無休

開館時間 : 午前9時~午後5時(金曜日は午後7時まで)

※9月18日は午前10時から ※入場は閉館の30分前まで

料金 : 一般 1300(1100)円 高・大学生1000(800)円 小・中学生600(400)円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

※学生券をご購入・ご入場の際は学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と
介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳をご提示ください。

前売券販売所 : 広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード 085-087)、広島市・呉市内の主なプレイ
ガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

開催クレジット

主催 : 広島県立美術館 / 中国新聞社 / 中国放送 / イズミテクノ

後援 : オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム / 在日スイス大使館 / 広島テレビ / 広島ホーム
テレビ / テレビ新広島 / 広島エフエム放送 / FMちゅーピー76.6MHz / エフエムふくやま / 尾道エフエム
放送 / FMはつかいち76.1MHz / FM東広島89.7MHz

協賛 : YKK AP / 日本ヒルティ / ライブアートボックス

広島展協賛 : 大和証券 / 大田鋼管 / 広島県信用組合 / 一般財団法人ケンシン地域振興財団

協力 : 全日本空輸 / 日本通運 / 日本リヒテンシュタイン協会

企画協力 : Bunkamura / TNCプロジェクト

問い合わせ先 : 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail : iroeuma2@gmail.com

担当 : 学芸課 森 万由子(絵画)、岡地 智子(陶磁器)

広報担当 : 総務課 一色 直香、弘津 かおる